

日本分析化学会東北支部 2020 年度 第 3 回役員会

日時：2020 年 12 月 12 日（土）13:00-14:00

形式：オンライン開催（Webex によるオンライン会議）

前回役員会議事録確認 (p.2)

議題

1. 支部役員の追加 資料 1 (p.3)
2. 理事会、本部・支部連絡会議等報告
 - 2-1. 理事会報告・本部支部連絡会報告 資料 2 (p.4-18)
 - 2-2. ぶんせき, 分析化学, Analytical Sciences
 - 2-3. その他
3. 2020 年度 事業報告 資料 3-1～3-5 (p.19-23)
4. 2021 年度 事業計画案 資料 4 (p.24)
5. 2020 年度 決算報告書・2021 年度収支予算案 資料 5-1, 5-2 (p.25-28)
6. 2021 年度 支部委員等案 資料 6 (p.29)
7. 令和 2 年度 東北支部各賞選考結果 資料 7 (p.30)
8. その他

日本分析化学会東北支部 2020 年度 第 2 回役員会 議事録（案）

日時 : 2020 年 7 月 18 日（土）13:00-14:00

形式：オンライン開催（Webex によるオンライン会議）

（事由：新型コロナウイルス（Covid-19）感染拡大の防止のため）

出席者：田副、熊谷、糠塚、唐島田、遠藤、伊野、井上（久）、小川、渡辺（健）、野原、石川、渡辺（壱）、和久井、松村、中川（公）、壹岐、上條、佐藤（雄）、珠玖、大江、火原、多田、西澤、藤村、高貝

（25 名，順不同、敬称略）

*委任状が更に 16 名分存在し、役員会開催における定足数を満たした

議題

1. 前回役員会議事録確認

2020 年度第 1 回役員会の議事録案が承認された。

2. 会議等報告

2020 年度第 1～3 回の理事会について報告された。また、タスクフォースについての説明があった。加えて、コロナの影響によるキャッシュフローの悪化について説明があり、2020 年度臨時理事会についての報告があった。

3. 本年度事業計画・報告

- ・ 壹岐支部長より、9 月 26 日の化学系学協会東北大会 分析化学・環境化学セッションについて案内があった。
- ・ 支部長より、支部役員会後に みちのく分析科学シンポジウムならびに分離機能とセンシング機能の化学セミナー2020 合同開催に関する案内があった。

4. その他

- ・ 壹岐支部長より、2021 年度 学会賞等の募集について積極的な応募の呼びかけがあった。
- ・ 第 81 回分析化学討論会の見通しに対する質問があり、遠藤実行委員長より本部タスクフォースとの関係があり本部の動向を静観しているとの回答があった。

以上

支部役員の追加について

氏名：福 山 真 央（ふくやま まお）

所属：東北大学多元物質科学研究所 助教

所属機関住所：〒980-8577 仙台市青葉区片平 2-1-1

連絡先：

電話 022-217-5396

メール maofukuyama@tohoku.ac.jp

推薦人： 火 原 彰 秀

公益社団法人日本分析化学会
2020 年度第 2 回臨時理事会議事録（案）

1日時：2020 年 8 月 19 日（水）16：00～17：20

2. 場所：Web 会議

3. 出席者

○出席理事： 内山 一美、石田 康行、石濱 泰、大谷 肇、蠣崎 悌司、金澤 秀子、東海林 敦、鈴木 真由美、茶山 健二、戸田 敬、早川 慎二郎、早下 隆士、原田 明、藤浪 真紀、宮野 博、森田 耕太郎、柿田 和俊（以上現在理事 20 名中 17 名が Web 出席）

○出席監事： 大塚 浩二、田中 俊逸（監事 2 名中 2 名が Web 出席）

○事務局： 三浦 隆志

○欠席理事： 壹岐 伸彦、長谷川 健、松浦 義和

4. 議題

【承認事項】（審議事項を含む）

【前回議事録の承認】（資料1）

原案どおりに全会一致で承認された。

1) 学会賞等受賞者の承認（原田副会長）（資料 2）

原田業務執行理事より、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、Web を利用した審査を行った旨報告があり、各賞の受賞候補者について報告があった。

（1）2020 年度学会賞および奨励賞審査委員会

先般開催の審査委員会において厳正な審査が行われ、資料記載のとおり 2020 年度学会賞受賞候補者 3 名、奨励賞受賞候補者 5 名がそれぞれ選出されたと説明があり、全会一致でこれを承認した。

（2）2020 年度学会功労賞・技術功績賞審査委員会

先般開催の審査委員会において厳正な審査が行われ、資料記載のとおり、学会功労賞は応募者なし、技術功績賞受賞候補者には 3 名が選出されたと説明があり、全会一致でこれを承認した。

（3）2020 年度先端分析技術賞審査委員会

先般開催の審査委員会において厳正な審査が行われ、資料記載のとおり 2020 年度 JAIMA 機器開発賞受賞候補者 2 名が選出されたと説明があり、全会一致でこれを承認した。

（4）2020 年度女性 Analyst 賞審査委員会

先般開催の審査委員会において厳正な審査が行われ、資料記載のとおり 2020 年度女性 Analyst 賞受賞候補者 2 名が選出されたと説明があり、全会一致でこれを承認した。

（5）2020 年度有功賞審査委員会

先般開催の審査委員会において厳正な審査が行われ、資料記載のとおり 2020 年度有功賞受賞候補者 52 名が選出されたと説明があり、全会一致でこれを承認した。

2) 役員等候補者選考委員候補者承認（金澤筆頭副会長）（資料3, 資料4）

金澤業務執行理事より、役員等候補者選考委員会の委員長互選結果について報告があり、委員会名簿が紹介され、全会一致で承認された。また、委嘱状の発行を省略し、名簿兼委嘱状の形式で出すことが提案され、全会一致で承認された。

3) 会長・副会長選任スケジュール（金澤筆頭副会長）（資料5）

金澤業務執行理事より、会長・副会長選任スケジュールの進捗状況が報告され、候補者に選ばれた推薦委員は委員交代となり、三次投票の後、会長候補者6名、副会長候補者9名を選出するが、最終候補者の承認はメール会議で行う可能性もあることが提案され、全会一致でこれを承認した。最終決定した会長候補者には「ぶんせき」誌掲載用の原稿を依頼し、「ぶんせき」誌11号に掲載、11月15日から投票開始、12月3日に投票締切、開票、12月理事会で会長候補者を承認する一連の予定が報告され、全会一致で承認された。

4) 年会・討論会準備進捗（大谷副会長）（資料6）

大谷業務執行理事より、年会の準備状況について、プログラムの速報版が公開された件、本理事会後には受賞講演の情報も公開される件、講演数は受賞講演含めて約400件であること等が報告され、参加予約登録締切が近づいているので、各支部等で参加登録のアナウンスをしていただき、より多くの参加者を募るよう依頼があった。次回討論会は山形大学で遠藤昌敏実行委員長、次回年会は神戸大学で大塚利行実行委員長のもと行われることが報告された。藤浪支部担当理事より、2022年討論会は茨城大学を会場とし、実行委員長は量子科学技術研究開発機構の山本博之氏であることが報告された。今後の年会・討論会は事務局を介さない形で運営する方針で、実行委員会には各支部からも参加していただき、学会全体で運営に関わる形で引き続き各方面から協力を得る旨、全会一致で承認した。

「ものづくり技術交流会 2020」開催について（東海林理事）（資料7）

藤浪支部担当理事より、分析イノベーション交流会の立ち上げの経緯について説明があった。東海林編集担当理事より、ものづくり技術交流会の開催について説明があり、69年会とのジョイント・オンライン開催だが、登録は別手続きとなり、オンデマンド配信も予定していることが報告された。本交流会は関東支部から始まった企画だが、今後年会・討論会時のジョイント開催を予定しており、支部の枠を超えた全国的な活動になることが報告され、全会一致でこれを承認した。

5) 規程改訂について（金澤筆頭副会長・原田副会長）（資料8）

金澤業務執行理事より、今年度コロナ禍の影響により、従来、各賞の審査委員会等はその都度郵送で行っていた過程を電磁的な方法に置き換えてきたが、今後の事務の省力化、経費節減のためにも各規程を変更して電磁的な方法を採用したい旨説明があり、資料のとおり規程の文言を修正することを全会一致で承認した。

6) 理事会・企画戦略会議スケジュール（資料9）

柿田業務執行理事より、前回理事会で決定した今後の理事会・企画戦略会のスケジュール表が紹介され、全会一致でこれを承認した。

【報告事項】

1) TF の進捗状況（金澤筆頭副会長）

金澤業務執行理事より、タスクフォース答申内容の進捗について、8月3日に各誌編集委員長、8月11日に各事業担当委員長に対する説明会が行われ、情報共有と今後の事業の進め方について報告された。

2) 職員人事（金澤筆頭副会長）

金澤業務執行理事より、金澤筆頭副会長と早下理事が事務局各職員と個別面談し、学会の財政状況、賞与の減額等の計画について説明したことが報告された。事務局職員1名から9月30日付けで退職届が提出されたことが報告された。退職金は現在の積立金額内であり、これを取崩してキャッシュフローに影響を及ぼさないようにすることが説明された。

3) 7月末現預金残高について（金澤筆頭副会長）（資料10）

柿田業務執行理事より、7月末現在のキャッシュフロー状況が報告された。5月29日開催の臨時理事会において、特定預金を取り崩すキャッシュ残額を2,500万円以下と設定したが、科研費口座の金額を引いて1,500万円以下、と設定することが報告された。

その他

- ・退職者が1名出たので、最長でも4年後には事務局が3名体制になるため、事業の整理と事務局体制の整備が急務である。
- ・次回年会での分析イノベーション交流会の開催について確認があり、必ずしも年会内の一行事の位置付けではなく、交流会が運営母体となり、年会実行委員会とは切り離れた形のジョイント開催の形をとる方針であることが確認された。
- ・年会等のオンライン開催の際、黒字化を見込める参加人数について質問があり、今後確認していくこととした。

以上で議案の審議等を終了し、17時20分に議長は閉会を宣した。

この議事録が正確であることを証するため、議長及び出席した監事は記名押印する。

2020年8月19日

公益社団法人日本分析化学会理事会

会 長 内山 一美

監 事 大塚 浩二

監 事 田中 俊逸

公益社団法人日本分析化学会
2020 年度第 3 回臨時理事会議事録（案）

1. 日時：2020 年 8 月 28 日（金）15：00～15：32

2. 場所：日本分析化学会会議室 Web 会議

3. 出席者

○出席理事： 壹岐 伸彦、石田 康行、石濱 泰、大谷 肇、蠣崎 悌司、金澤 秀子、
東海林 敦、鈴木 真由美、茶山 健二、戸田 敬、長谷川 健、
早下 隆士、原田 明、藤浪 眞紀、宮野 博、森田 耕太郎、
柿田 和俊（以上現在理事 19 名中 17 名が Web 出席）

○出席監事： 大塚 浩二、田中 俊逸（監事 2 名中 2 名が Web 出席）

○事務局： 三浦 隆志

○欠席理事： 早川 慎二郎、松浦 義和

4. 議題

【報告事項】

内山会長ご逝去について（金澤筆頭副会長）

金澤業務執行理事より、内山一美会長逝去の報告があり、出席者全員で黙祷を捧げた。

【承認事項】（審議事項を含む）

1) 内山会長逝去に伴う本会の運営について（金澤筆頭副会長）（資料 1）

金澤業務執行理事より、資料 1 のとおり、会長逝去に伴い、筆頭副会長である金澤秀子氏が会長業務執行を代行する件、代行期間を 2021 年 2 月末日までとする件、この期間は会長を選任しない件が提案された。本件について投票が行われ、賛成 17 票、反対 0 票の全会一致で承認された。

2) 代表理事の選任について（金澤筆頭副会長）（資料 2）

金澤業務執行理事より、資料 2 に基づき代表理事の選任について説明があり、金澤筆頭副会長を代表理事とし、期間を 2021 年 2 月末日までとすることが、提案された。本件について投票が行われ、賛成 17 票、反対 0 票の全会一致で承認された。

3) 本年度学会賞等各賞の賞記の年月日と贈呈者について（大谷副会長）

大谷業務執行理事より、学会賞等各賞は通例では年会での表彰式の日付と会長名で賞記を発行するが、本年は年会を現地開催しないので、各賞が承認された 8 月 19 日理事会の日付で、内山会長名で発行することが提案され、全会一致でこれを承認した。

【その他の報告事項】

1) 内山会長「ぶんせき」誌追悼記事について（原田副会長）

原田業務執行理事より、「ぶんせき」誌掲載の追悼記事は、金澤筆頭副会長と中嶋秀先生（都立大）の 2 名に執筆いただくことが報告された。

2) 学会 HP の訃報記事について（石濱副会長）（資料 3）

石濱業務執行理事より **Web** サイトに訃報記事を掲載した件、また本日の決定事項についても同様に至急 **Web** サイトに掲載する予定であることが報告された。

以上で議案の審議等を終了し、**15 時 32 分**に議長は閉会を宣した。

この議事録が正確であることを証するため、議長及び出席した監事は記名押印する。

2020 年 8 月 28 日

公益社団法人日本分析化学会理事会

代表理事 筆頭副会長 金澤 秀子

監 事 大塚 浩二

監 事 田中 俊逸

公益社団法人日本分析化学会
2020年度本部支部連絡会議議題

1. 日時：2020年9月17日（金）12:30～13:30

2. 場所：Web会議

3. 出席者

○出席予定理事：金澤秀子、石濱 泰、大谷 肇、原田 明、宮野 博、早下隆士、
柿田和俊

○出席予定支部長：蠣崎悌司（北海道支部）、壹岐伸彦（東北支部）、藤浪真紀（関東支
部）、金子 聡（中部支部）、茶山健二（近畿支部）、早川慎二郎（中国四国支部）、
黒田直敬（九州支部）

○事務局：三浦隆志

○欠席予定：

4. 議題

○本部からの報告事項（15分程度）（金澤筆頭副会長）

1) 内山会長ご逝去について（口頭）

2) 内山会長逝去に伴う本会の運営体制と代表理事について

3) 「会員3000名の日本分析化学会を考えるタスクフォース」の要点と現状

4) 本部正職員人事について

5) 分析化学会キャッシュフローの状況と特定預金取り崩しについて

6) 新役員選考状況（口頭）

○各支部からのご報告事項（各5分：計35分）

○意見交換（10分程度）

以 上

公益社団法人 日本分析化学会
2020 年度第 4 回理事会議事録（案）

1. 日時：2020 年 10 月 8 日（木）14：30～16：30
2. 場所：日本分析化学会会議室（東京都品川区西五反田一丁目 26 番 2 号五反田サンハイツ内）
3. 出席者

○出席理事：壹岐伸彦、石田康行、石濱 泰、大谷 肇、蠣崎悌司、金澤秀子、東海林敦、戸田 敬、早下隆士、原田 明、藤浪真紀、宮野 博、森田耕太郎、鈴木真由美、茶山健二、長谷川健、早川慎二郎、柿田和俊（理事 19 名中 18 名が Web 双方向通信システムによる出席者（以下「Web 出席者」という）

○出席監事：大塚浩二、田中俊逸（監事 2 名中 2 名が Web 出席者）

○議長：金澤秀子

○オブザーバー出席：勝田正一

○事務局：三浦隆志

○欠席理事：松浦義和

4. 議事

柿田理事が理事数 19 名中 18 名の出席があり定款第 38 条第 1 項に規定する理事の過半数の出席を満たし本理事会が有効に成立している旨を確認した。

【承認事項】（審議事項を含む）

【前回など議事録の承認】

7 月 2 日開催された第 3 回理事会議事録の内容確認：資料 1

8 月 28 日開催された第 3 回臨時理事会議事録の内容確認：資料 2

10 月 1 日開催された第 4 回臨時理事会議事録の内容確認：資料 3

資料 1 から 3 までの議事録の内容について確認し、全会一致でこれを承認した。

【本部活動】

1) 副会長業務分担：資料 4

宮野業務執行理事より、会長・筆頭副会長変更に伴う副会長の業務分担について資料に基づき説明があり、原案通り全会一致で承認した。

2) 職員年末賞与について：資料 5

宮野業務執行理事より、正職員の 2020 年度 12 月期期末手当については、学会の財政状況を鑑み、国家公務員給与改定勧告から 10%カットすることが提案され、原案通り全会一致で承認した。

【組織運営】金澤代表理事

1) 第 2 四半期決算状況：資料 6

柿田業務執行理事より、資料に基づき、各部門での収支の状況、キャッシュフローの状況が説明された。コロナ禍の影響により例年と大きく異なる推移を示しているが、最終的には昨年と同様の赤字決算が予想され、科研費を除いた現金残高が 1,500 万円

を下回った場合は、10 月末に特定預金の取り崩しを行う可能性があることが説明され、全会一致でこれを承認した。

2) 2021 年度支部費の提案：資料 7

柿田業務執行理事より、資料に基づき 2021 年度の支部費配分額の計算について説明があり、原案通り全会一致で承認した。

【学術事業】

1) 第 80 回分析化学討論会会計報告（蠣崎理事）：資料 8・・・報告事項を含む
蠣崎支部担当理事より、第 80 回分析化学討論会の講演件数、参加人数、収支等の概要が報告された。コロナ禍により現地開催せず、講演要旨集の発行をもって会の成立とした。当初の予定より少ないものの、黒字決算となったことが報告され、全会一致で承認した。また、北海道支部では通常時の収入が少ないので、年会・討論会での収入が支部活動の維持のために重要だったが、討論会の開催様式変更により予算計画が大きく変わり、2023 年度には資金ショートのあることが報告された。

【広報事業】

石濱業務執行理事より、必要な事案のホームページ掲載等、滞りなく行われていることが説明され、全会一致で承認した。

【出版事業】

1) 「ぶんせき」誌 電子化について：資料 9

原田業務執行理事より、「ぶんせき」誌電子化の経緯と進捗状況の概要について説明があった。続いて勝田「ぶんせき」編集委員長より、編集委員会での検討内容が紹介され、電子化することによる個人会員の減少、広告料収入の減少等の懸念材料についても議論があったが、2019 年度の理事会において 2021 年度から電子化することが決定していた事項であるので、電子化実現へ向けて検討を進めることとし、全会一致で承認した。関連して、会員への告知の方法、会員の E-mail アドレスの収集等について議論された。

2) 「Analytical Sciences」の外部委託先について

長谷川編集担当理事より、「Analytical Sciences」誌の外部委託先として、Springer 社を候補としており、現在の、事務局職員一人に編集業務の負担がかかっている状態、収益を上げる仕組みの限界、2.5 以上のインパクトファクター獲得の必要性、Analytical and Bioanalytical Chemistry 誌との連携の相乗効果、等が説明され、Springer 社との交渉を始めることについて、全会一致で承認した。

【会員管理】

石濱業務執行理事より、会員管理システムの新契約先の検討が進行中であることが報告され、全会一致で承認した。

【その他】

1) 会員現況・入退会状況：資料 10

2) 会員資格喪失者：資料 11

事務局より、会員の入・退会リスト、会員資格喪失者のリストが報告され、全会一致

で承認した。

【報告事項】

【本部運営】

1) タスクフォースの進捗状況（各委員長への説明会議事録）：資料 12

宮野業務執行理事より、8月3日、11日に行われた各誌編集委員長、各研究懇談会委員長、年会・討論会実行委員長及び常置委員会委員長に対するタスクフォース説明会について報告された。またタスク管理表に基づき現在の進捗状況が報告された。

2) 本部支部連絡会議議事録：資料 13

金澤代表理事より、9月17日に開催された本部支部連絡会議の議事録に基づき、会議内容が報告された。

【学術事業】

1) 第 69 回年会会計速報：資料 15

大谷業務執行理事より、9月16日～18日にオンライン開催された日本分析化学会第69年会につき、講演件数、参加登録者数、暫定版の収支報告書、若手ポスター賞の受賞者が報告された。

2) 第 81 回分析化学討論会 計画概要：資料 16

壹岐支部担当理事より、第 81 回分析化学討論会の日程等について報告があり、現時点ではオンライン開催の可能性が高いことが報告された。

3) 第 70 回年会 計画概要：資料 17

茶山支部担当理事より、日本分析化学会第 70 年会の概要、予定について報告された。一般講演以外の各種シンポジウム等を行わない方針であることが紹介されたが、産官学の連携の重要性も考慮し、開催可能なシンポジウムについては検討をしていただくこととした。

藤浪支部担当理事より、第 82 回分析化学討論会は茨城大学水戸キャンパスにて、山本博之実行委員長のもと開催を準備中であることが報告された。

【広報事業】

1) 関係機関（会社）への「ぶんせき」誌への広告掲載依頼：資料 18

柿田業務執行理事より、過去に広告掲載実績があり、本年度は広告掲載をいただけない企業のリストが紹介され、コンタクト可能な理事は(株)明報社まで連絡していただくよう依頼した。

【その他】

次回以降理事会・企画戦略会議 予定

第 3 回企画戦略会議	11 月 10 日（火）14:00～17:30	Web 会議
第 5 回理事会	12 月 10 日（木）14:00～17:30	Web 会議
第 4 回企画戦略会議	1 月 14 日（火）14:00～17:30	Web 会議
第 6 回理事会	2 月 18 日（木）14:00～17:30	Web 会議

以上で議案の審議等を終了し、**16 時 30 分**に議長（会長）は閉会を宣した。
この議事録が正確であることを証するため、会長及び出席した監事がここに記名押印する。

2020 年 10 月 8 日

公益社団法人日本分析化学会理事会

代表理事 会長 金澤秀子

監事 大塚浩二

監事 田中俊逸

公益社団法人 日本分析化学会
2020 年度第 5 回理事会議題

1. 日時：2020 年 12 月 10 日（木）14：00～17：00
2. 場所：Web 会議
3. 出席者
 - 出席予定理事：壹岐伸彦、石濱 泰、大谷 肇、蠣崎悌司、金澤秀子、東海林敦、戸田 敬（16 時まで）、早下隆士、原田 明、藤浪眞紀、宮野 博、鈴木真由美、茶山健二（途中出入）、松浦義和（16 時まで）、柿田和俊（理事 19 名中 15 名が Web 双方向通信システムによる出席予定）
 - 出席予定監事：大塚浩二、田中俊逸（監事 2 名中 2 名が Web 出席予定）
 - 事務局：三浦隆志
 - 欠席予定理事：石田康行、早川慎二郎、
 - 未連絡：長谷川健、森田耕太郎
4. 議題

【承認事項】（審議事項を含む）

【前回など議事録の承認】

8 月 19 日に開催された第 2 回臨時理事会議事録の内容確認：資料 1

10 月 8 日に開催された第 4 回理事会議事録の内容確認：資料 2

【本部活動】宮野筆頭副会長

1) 次期会長予定者の承認：口頭

【組織運営】宮野筆頭副会長

1) 第 3 四半期決算状況：理事会後配付

2) 現預金残高：資料 3 支部役員会 資料2-5-(1)

3) 今年度収支予想（概算）：資料 4

4) 近畿支部若手基金取り崩し（茶山理事）：資料 5

【学術事業】大谷副会長

1) 第 69 回年会会計報告（途中経過）：資料 6

タスクフォース進捗状況と次年度計画

【学術事業】大谷副会長

1) 年会討論会運営 WG について：資料 7 支部役員会 資料2-5-(2)

【広報事業】【会員管理】石濱副会長

1) 次年度計画について：資料 8

【出版事業】原田副会長

1) 「ぶんせき」誌電子化次年度計画及び予算推定：資料 9、資料 10

【産学・社会活動】宮野筆頭副会長

1) 次年度計画について：資料 11、資料 12、資料 13

2) 新表彰制度について：資料 14

【その他】事務局

1) 会員現況・入退会状況：資料 15

【報告事項】

【本部運営】

- 1) タスクフォースの進捗状況：口頭
- 2) 「分析イノベーション交流会」について：東海林理事（口頭）
- 3) 第 71 回年会予定：資料 16

次回以降理事会・企画戦略会議 予定

第 4 回企画戦略会議	1 月 14 日（火） 14:00～17:30	Web 会議
-------------	-------------------------	--------

第 5 回理事会	2 月 18 日（木） 14:00～17:30	Web 会議
----------	-------------------------	--------

— 以上 —

公益社団法人 日本分析化学会
現預金残高状況

	前年度2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末
2016年度	83,476,494	89,031,008	95,237,246	93,053,993	83,697,882	82,435,878	79,608,182	61,783,753	67,637,151	75,427,946	89,260,925	89,532,872	83,753,570
2017年度	83,753,570	84,134,734	89,233,498	86,944,487	79,909,667	80,178,472	76,713,536	65,219,552	61,767,117	65,516,956	82,929,257	88,094,633	83,545,437
2018年度	83,545,437	84,902,694	82,716,990	77,738,606	67,392,124	73,273,430	65,183,266	62,946,710	65,186,575	59,618,893	75,482,424	76,814,699	59,471,027
2019年度	59,471,027	60,913,769	54,240,614	52,597,552	44,925,903	44,573,765	43,165,584	35,891,270	33,461,752	43,973,496	54,776,067	52,879,062	39,237,522
2020年度	39,237,522	33,958,948	38,198,349	40,334,225	31,438,723	23,364,028	31,359,639	22,423,511	27,648,899	30,083,290			
2020年度(除	-	-	-	-	-	23,364,028	20,209,639	16,978,951	11,054,339	13,488,730			

科研費残

0 11,150,000

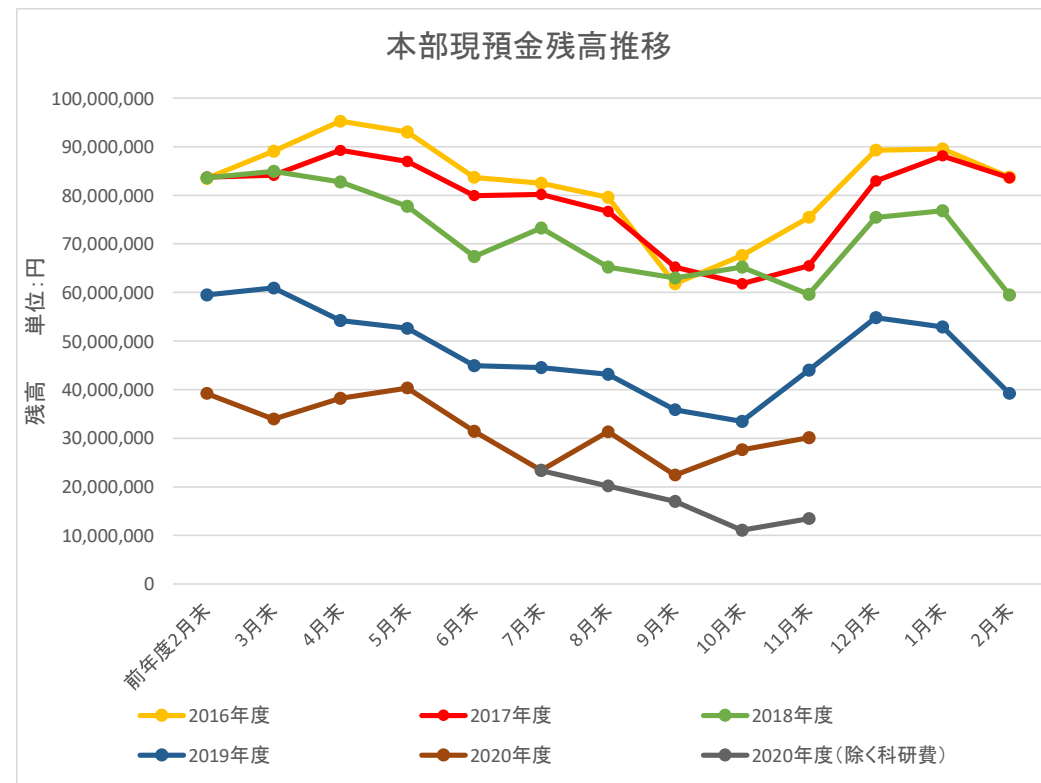
5444560

16,594,560

16,594,560

科研費入金

注:9月末は10月1日の数字



11月12日:10,000,274円取崩し
(分析研究奨励・教育基金より)

第5回理事会（定期）資料(学術業務（年会、討論会）：大谷副会長)

TF（年会・討論会）

「2年後を目処に実行委員会による自主運営」

これまで、年会・討論会を主として担当されていた川戸さん・國武さんがすでに退職されており、実行委員会が自主運営せざるを得ない。また、69 年会では、初のオンライン開催となったこともあり、実質的に自主運営をかなり先取りする形になった。今後の年会・討論会を自主運営によりスムーズに実施するには、本部役員（担当副会長など）の関与が不可欠である。このため、全国規模での年会・討論会 WG を発足させる。また、本部事務局会員担当・会計担当とは当面は連携が必要。さらに、オンライン小委員会との関係明確化も検討する。

<2020 年度の活動>

- ・ 69 年会の会計確定
- ・ 年会・討論会 WG の立ち上げ（別紙メール依頼文参照）
- ・ 来年度討論会・年会実行委員会との連絡を密にし、準備状況等を本部役員も把握する。

<2021 年度の計画>

- ・ オンライン開催か現地開催か？
- ・ 国際文献社への業務委託の見直し（2021 年度は委託契約を継続するが、委託内容の見直しを行う。具体的には、会員管理との関係明確化、参加登録費を含めた出納を本部事務局から実行委員会に移行、HP は学会が直接管理、要旨作成方法の見直し（校正作業をなくす）。2022 年度以降の委託先変更の可能性についても検討。

<その他>

- ・ アジア分析科学シンポジウムの取り扱い（本部予算 50 万円、69 年会では中止）。必ずしも年会時の開催にこだわらず、効果的な開催方法を探る。
- ・ ICAS：2021 は延期？

Sent: Sunday, November 29, 2020 1:49 PM

Subject: RE: 年会・討論会 WG 委員選出依頼文

日本分析化学会
各支部支部長殿
年会・討論会担当副会長
大谷 肇

日頃は、本会支部活動にご尽力いただき感謝申し上げます。

さて、ご承知のように、本会の会員数が近い将来 3000 人程度にまで減少することが見込まれるため、それに対応した学会運営を見据えたタスクフォース (TF) 答申が提出され実行に移されつつあります。その中で、本会の主要行事である年会・討論会につきましては「2 年後を目処に実行委員会による自主運営」がうたわれています。一方で、これまで年会・討論会を担当していた事務局職員が相次いで退職されたことから、2 年後を待たず今後は否応なしに実行委員会による自主運営が求められます。

そこで、正職員が関わらずに円滑に遅滞なく開催準備が進められる仕組みをつくるため、年会・討論会運営 WG を早急に立ち上げたいと考えております。つきましては、各支部より WG 委員をそれぞれ 2 名選出し推薦をお願い致します。できましたら、2 名のうち 1 名は直近の年会・討論会で庶務担当などの中心的な実務を経験された方（これから開催される年会・討論会ですでに実行委員会が立ち上がっている場合はその役目にある方）を、もう一名は将来の年会・討論会でそうした役目を担う可能性のある若手の方をお願いできれば幸いです。また、方向性が固まるまでは同じメンバーで議論を進めたいと思いますので、短期で交代することなく数年程度は続けていただける方をお願いいたします。

急な話で申し訳ありませんが、各支部 2 名の WG 委員を（本人の内諾を得たうえで）、12/15 までに本部事務局 (online@jsac.or.jp 及び kakita-kazutoshi@jsac.or.jp コピー ohitani.hajime@nitec.ac.jp)までご推薦ください。添付のエクセルに記入の上お送りください。12 月 10 日の理事会でもご説明してご了解を得たいと思いますが、それに先立って人選を進めていただければ幸いです。委員が固まりましたら年内にも一度会合（オンライン）を設け、次年度の討論会・年会への対応から議論を始めたいと思います

何卒よろしく願いいたします。

主催

「みちのくシンポジウム」ならびに
「分離機能とセンシング機能の化学セミナー2020」
合同開催に関わる事業報告書

日時 : 2020 年 7 月 18 日 (土) 14:00

形式 : オンライン開催 (Webex によるオンライン会議)

(事由 : 新型コロナウイルス (Covid-19) 感染拡大の防止のため)

参加者 : 31 名

プログラム・演題:

14:10-14:40

「3 次元細胞組織を評価する呼吸活性測定デバイスの開発」
平本薫氏 (東北大院環境)

14:40-15:40

「固相抽出に基づく新奇微量分析システム」
糠塚いそし先生 (弘前大院理工)

後援

事業報告書

日本分析化学会東北支部

事業名	分析技術セミナー					
開催日時	令和2年9月24日					
会場	(地独) 岩手県工業技術センター 大ホール					
参加予定人数	35名(企業26名+職員9名) / 募集40名					
主催・共催団体名	主催: 岩手県工業技術センター 後援: 日本化学会東北支部、日本分析化学会東北支部、 INS岩手県リン資源地産地消研究会、INS環境リサイクル研究会、(株)島津製作所東北支店					
担当者	氏名	佐々木 昭仁(ささき てるひと)				
	所属	地方独立行政法人岩手県工業技術センター 機能材料技術部				
	住所	〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡2-4-25				
	電話	019-635-1115				
	FAX	019-635-0311				
	E-mail	teruhito-s@pref.waite.jp				
概要	県内製造業ほかを対象とし、分析技術セミナーを開催したもの。今年度は機器分析を活用した材料表面技術(表面観察・定性・定量)を学ぶことを目的とした。募集の結果、当日、県内企業12社、県外2社より26名が参加した。尚、新型コロナウイルス感染予防対策として、今年度の募集は昨年度の半分以上とし、来客座席の空間を広めに設定して開催。 電子顕微鏡やEPMA、X線分析装置をはじめとしたよく使われる分析評価装置の基礎から測定事例まで紹介し、質疑応答も行われた。計6講演が行われ、内2講演はリモート(インターネット回線)により実施した。アンケートの結果(県内企業を対象)より、満足の声が多く寄せられた。 会場の様子					
備考	①懇親会の有無		有	/	無	
	②講演件数	6	見学会件数	0	その他件数	2
	③次回担当者名	佐々木昭仁				

後援

事業報告書

日本分析化学会東北支部

事業名	炭素材料技術セミナー					
開催日時	令和2年10月15日					
会場	(地独) 岩手県工業技術センター 大ホール					
参加申込人数	センター会場: 26名 / (募集定員 40名) リモート会場: 180名 / (募集定員100名)【満員御礼】					
主催・共催団体名	主催: 岩手県工業技術センター 後援: (公社) 日本化学会東北支部、(公社) 日本分析化学会東北支部、炭素材料学会 (一社) 日本粉体工業技術協会、東洋炭素株式会社					
担当者	氏名	佐々木 昭仁(ささき てるひと)				
	所属	地方独立行政法人岩手県工業技術センター 機能材料技術部				
	住所	〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡2-4-25				
	電話	019-635-1115				
	FAX	019-635-0311				
	Email	teruhito-s@pref.waite.jp				
概要	県内製造企業等を対象として、「環境に優しい」をテーマに、新たな製品開発や既存製品の改良に役立つ高機能炭素材料に関する情報提供を行ったもの。先進事例の紹介のほか、軽量化事例について紹介が行われた。 募集の結果、各後援団体のご協力により、センター大ホール会場へ26名(講師を含む)、リモート会場へ180名の参加申込が寄せられた。尚、新型コロナウイルス感染予防対策として、今年度の募集は大ホール定員(88名)の半分以上とし、来客座席の空間を広めに設定して開催した。 産業技術総合研究所のゼロエミッション国際共同研究センター副研究センター長の羽鳥先生のほか、東洋炭素執行役員の森下先生、以下、同社の町野先生、松井先生による講演が岩手県工業技術センターにて行われ、同時にリモート会場へ配信された。各講師は実際現場で活躍している技術者であることから発表内容が充実し、聴講者の高い関心が寄せられた。 会場からの質疑応答のほか、リモート会場からの質疑応答にも対応し(技術相談会)大盛況であった。  会場の様子  各講師による講演  リモートの 質疑応答					
備考	①懇親会の有無		有	/	無	
	②講演件数	4	見学会件数	0	その他件数	1
	③次回担当者名	佐々木昭仁				

後援

事業報告書

事業名	第2回電池搭載技術セミナー					
開催日時	令和2年10月28日(水)					
会場	地方独立行政法人岩手県工業技術センター 大ホール					
参加人数	出席28名／申込30名					
主催・共催団体名	主催：岩手県工業技術センター 後援：(一社)電池工業会、(公社)電気化学会 東北支部、 (公社)日本化学会 東北支部、(公社)日本分析化学会 東北支部					
担当者	氏名	佐々木昭仁、渡辺 久、村松真希、遠藤治之				
	所属	地方独立行政法人 岩手県工業技術センター				
	住所	020-0857 岩手県盛岡市北飯岡2-4-25				
	電話	019-635-1115				
	FAX	019-635-0311				
	Email	teruhito-s@pref.iwate.jp (佐々木昭仁)				
概要	近年、バッテリーの需要が急速に拡大している一方、電池の搭載ノウハウを有していないため、自社製品等へのバッテリーの搭載を躊躇している県内企業等が多数ある。本セミナーでは、「電池搭載技術」に着目し、電池の基礎から電池の種類、搭載技術に必要なバッテリー制御機構、リチウムイオン二次電池の安全性に至るまで、情報提供を行ったもの。 募集の結果、各後援団体のご協力により30名(講師を含む)の参加申込が寄せられた。尚、新型コロナウイルス感染予防対策として、今年度の募集は大ホール定員(88名)の半分以下とし、来客座席の空間を広めに設定して開催した。 電池の基礎については山口大学助教(特命)のトドロフ・ヤンコ・マリノフ氏にご講演をいただき、電池の搭載技術や安全性に関しては三重大学大学院工学研究科リサーチフェローの堀場達雄氏、株式会社八山代表取締役の馬場良貴氏にご講演をいただいた。 今回の各講陣は大手企業の現場経験者であり、実務上の課題解決に直結する内容であったことから、質疑応答や技術相談会において大盛況であった。  会場の様子  各講師による講演  質疑応答の様子					
備考	①懇親会の有無		有	/	無	
	②講演件数	3	見学会件数	0	その他件数	1
	③次回担当者名					

【2020 年度の事業一覧】

- (1) 07 月 18 日 「みちのく分析化学シンポジウム」・「分離機能とセンシング機能の化学セミナー2020」 合同開催（主催：今回報告）
- (2) 09 年 24 日 分析技術セミナー（後援：今回報告）
- (3) 09 月 26・27 日 化学系学協会東北大会 分析化学・環境化学セッション
- (4) 10 月 15 日 炭素材料セミナー（後援：今回報告）
- (5) 10 月 28 日 第二回電池搭載技術セミナー（後援：今回報告）

【コロナによる中止の事業】

- (1) 第 37 回 無機・分析コロキウム
- (2) 2020 年度 東北・関東支部合同開催 東日本分析化学若手交流会

2021 年度の事業計画案

主催

- ・ 分離機能とセンシング機能の化学セミナー2021
- ・ みちのく分析化学シンポジウム

共催

- ・ 2021 年度 東北・関東支部合同開催 東日本分析化学若手交流会
- ・ 第 37 回 無機・分析コロキウム
- ・ 2021 年度 化学系学協会東北大会

収支予算書（正味）案			
令和2年 3月 1日から令和2年11月30日まで			
公益社団法人 日本分析化学会			
東北支部			
科 目	決算額	予算額	備考
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	19	38	
受 取 入 会 金			
受 取 会 費			
事 業 活 動 収 入	1,191,416	1,191,434	
講演会収入			
討論会収入			
講習会収入			
印 税 収 入			
広告料・展示料収入			
補助金収入	991,400	991,400	
本 部	991,400	991,400	本部補助金
そ の 他	0	0	日本分析化学会全国若手交流会 助成金
受取寄付金	200,000	200,000	フロンティア・ラボより
雑 収 益	16	34	
受取利息収入	16	34	
雑 収 入			
経常収益計	1,191,435	1,191,472	
(2) 経常費用			
事 業 活 動 支 出			
臨時雇賃金	0	0	
会 議 費	0	0	会場代など
旅 費 交 通 費	0	800,000	役員会交通費、各事業での講演者旅費
通 信 運 搬 費	0	2,500	
消 耗 品 費	0	5,000	
修 繕 費	0	0	
印刷製本費	0	60,000	各事業での要旨製本代費用
光熱水料費	0	0	
賃借料（リース除く）	0	50,000	
諸 謝 金	0	40,000	各事業での謝金
租 税 公 課	0	0	
支払負担金	40,000	70,000	共催分担金
支払助成金	0	0	
内部支払助成金	0	0	若手交流会
委 託 費	0	0	
表 彰 費	0	30,000	支部各賞、各事業での表彰費用
雑 費	2,640	5,000	振込み手数料、残高証明代金など
経常費用計	42,640	1,062,500	
評価損益調整前当期増減額	1,148,795	128,972	
評価損益等計	0	0	
当期経常増減額	1,148,795	128,972	
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	
経常外収益計	0	0	
(2) 経常外費用			
雑 損 失	0	0	
経常外費用計	0	0	
当期経常外増減額	0	0	
当期一般正味財産増減額	1,148,795	128,972	
一般正味財産期首残高	7,874,066	7,874,066	
一般正味財産期末残高	9,022,861	8,003,038	
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	
III 正味財産期末残高	9,022,861	8,003,038	

事業案件別支出見込み(令和2年11月30日)		
収入		
	2020年度決算額見込み(円)	2020年度予算額(円)
本部補助金	991,400	991,400
寄付金	200,000	200,000
その他(利息等)	35	
計	1,191,435	1,191,400
支出		
	2020年度決算額見込み(円)	2020年度予算額(円)
第1回役員会	0	0
第2回役員会	0	241,000
第3回役員会	0	241,000
分離機能とセンシング機能の化学セミナー	0	0
みちのく分析科学シンポジウム	0	130,000
日本分析化学東北支部若手交流会	0	150,000
化学系学協会東北大会(共催分担金)	40,000	40,000
International Symposium on Analytical Electrochemistry 2019(共催分担金)	0	0
無機・分析化学コロキウム(共催分担金)	0	0
支部各費	0	50,000
通信運搬費・雑費(残高証明、振り込み手数料、消耗品)	2,640	20,000
計	42,640	872,000

収支予算書（正味）案			
令和2年3月1日から令和3年2月28日まで			
公益社団法人 日本分析化学会			
東北支部			
科 目	予算額	前年度予算額	備考
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	0	38	
受 取 入 会 金			
受 取 会 費			
事 業 活 動 収 入	1,031,400	1,191,434	
講 演 会 収 入			
討 論 会 収 入			
講 習 会 収 入			
印 税 収 入			
広告料・展示料収入			
補 助 金 収 入	1,031,400	991,400	
本 部	991,400	991,400	本部補助金
そ の 他	40,000	0	日本分析化学会全国若手交流会 助成金
受 取 寄 付 金	0	200,000	フロンティア・ラボより
雑 収 益	0	34	
受取利息収入	0	34	
雑 収 入			
経常収益計	1,031,400	1,191,472	
(2) 経常費用			
事 業 活 動 支 出			
臨 時 雇 賃 金	0	0	
会 議 費	0	0	会場代など
旅 費 交 通 費	800,000	800,000	役員会交通費、各事業での講演者旅費
通 信 運 搬 費	5,000	2,500	
消 耗 品 費	5,000	5,000	
修 繕 費	0	0	
印 刷 製 本 費	60,000	60,000	各事業での要旨製本代費用
光 熱 水 料 費	0	0	
賃借料（リース除く）	50,000	50,000	
諸 謝 金	40,000	40,000	各事業での謝金
租 税 公 課	0	0	
支 払 負 担 金	80,000	70,000	共催分担金
支 払 助 成 金	0	0	
内部支払助成金	0	0	
委 託 費	0	0	
表 彰 費	30,000	30,000	支部各員、各事業での表彰費用
雑 費	5,000	5,000	鑑込み手数料、残高証明代金など
経常費用計	1,075,000	1,062,500	
評価損益調整前当期増減額	-43,600	128,972	
評価損益等計			
当期経常増減額	-43,600	128,972	
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計			
(2) 経常外費用			
雑 損 失			
経常外費用計	0	0	
当期経常外増減額	0	0	
当期一般正味財産増減額	-43,600	128,972	
一般正味財産期首残高	9,022,861	7,874,066	
一般正味財産期末残高	8,979,261	8,003,038	
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額			
指定正味財産期首残高			
指定正味財産期末残高	0	0	
III 正味財産期末残高	8,979,261	8,003,038	

事業案件別支出		
収入		
	2020年度決算額見込み(円)	2021年度予算額(円)
本部補助金	991,400	991,400
寄付金	200,000	200,000
その他(利息等)	35	-
計	1,191,435	1,191,400
支出		
	2020年度決算額見込み(円)	2021年度予算額(円)
第1回役員会	0	241,000
第2回役員会	0	241,000
第3回役員会	0	241,000
分離機能とセンシング機能の化学セミナー	0	0
みちのく分析科学シンポジウム	0	130,000
日本分析化学東北支部若手交流会	0	150,000
化学系学協会東北大会(共催分担金)	40,000	40,000
International Symposium on Analytical Electrochemistry 2019	0	0
無機・分析化学コロキウム(共催分担金)	0	0
支部各賞	0	50,000
通信運搬費・雑費(残高証明、振り込み手数料、消耗品)	2,640	20,000
計	42,640	1,113,000

資料 6

東北支部委員等一覧（案）

年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	備考
支部長	尾形 健明	尾形 健明	我妻 和明	我妻 和明	末永 智一	末永 智一	糠塚 いそし	糠塚 いそし	壹岐 伸彦	壹岐 伸彦	西澤 精一	
次期支部長		我妻 和明		末永 智一		糠塚 いそし		壹岐 伸彦		西澤 精一		
副支部長	糠塚 いそし	佐藤 健二	佐藤 健二	岩田 吉弘	岩田 吉弘	壹岐 伸彦	壹岐 伸彦	西澤 精一	西澤 精一	西澤 精一	大江 知行	
	大江 知行	大江 知行	山下 幸和	佐藤 健二	猿渡 英之	猿渡 英之	渡辺 忠一	渡辺 忠一	遠藤 昌敏	遠藤 昌敏	遠藤 昌敏（討論会実行委員長）	
支部監事	安斉 順一	糠塚 いそし	糠塚 いそし	大江 知行	佐藤 健二	西澤 精一	西澤 精一	岩田 吉弘	岩田 吉弘	志村 清仁	志村 清仁	
	福島 美智子	福島 美智子	大江 知行	尾形 健明	我妻 和明	我妻 和明	猿渡 英之	猿渡 英之	糠塚 いそし	糠塚 いそし	壹岐 伸彦	
副会長*または理事	寺前 紀夫	寺前 紀夫	我妻 和明	我妻 和明	末永 智一	末永 智一	糠塚 いそし	糠塚 いそし	壹岐 伸彦	壹岐 伸彦	西澤 精一	2013年から支部長が理事をかねる
常議員または代議員	赤坂 和昭	赤坂 和昭	赤坂 和昭	小川 信明	小川 信明	平山 和雄	平山 和雄	藤村 務	藤村 務	藤村 務	藤村 務	任期2年
	安斉 順一	安斉 順一	安斉 順一	平山 和雄	平山 和雄	糠塚 いそし	糠塚 いそし	平野 愛弓	平野 愛弓	平野 愛弓	平野 愛弓	
	岩田 吉弘	尾形 健明	小川 信明	糠塚 いそし	糠塚 いそし	渡辺 忠一	渡辺 忠一	末永 智一	末永 智一	赤坂 和昭	赤坂 和昭	
	尾形 健明	佐藤 健二	佐藤 健二	渡辺 忠一	安斉 順一	安斉 順一	安斉 順一	中川 公一	中川 公一	遠藤 昌敏	遠藤 昌敏	
	佐藤 健二	松永 英之	松永 英之	安斉 順一	村本 光二	村本 光二	村本 光二	伊藤 徹二	伊藤 徹二	伊藤 徹二	伊藤 徹二	
	寺前 紀夫	山下 幸和	山下 幸和	村本 光二						火原 彰秀	火原 彰秀	
	松永 英之	渡辺 忠一	渡辺 忠一							岩田 吉弘	岩田 吉弘	
										北川 文彦	北川 文彦	
役員等候補者選考委員	福島 美智子	福島 美智子	福島 美智子	福島 美智子	福島 美智子	西澤 精一*	西澤 精一*	赤坂 和昭*	赤坂 和昭	赤坂 和昭	石川大太郎	分野を考慮して選出。2名が本部決定委員となる。本部決定委員は連続2期を超えて留任できない。
本部決定委員	村本 光二	村本 光二*	赤坂 和昭*	赤坂 和昭*	赤坂 和昭*	糠塚 いそし*	伊野 浩介	伊野 浩介	伊野 浩介	伊野 浩介	平野 愛弓	
	末永 智一*	末永 智一*	壹岐 伸彦*	壹岐 伸彦*	壹岐 伸彦*	佐藤 雄介	佐藤 雄介	佐藤 雄介*	佐藤 雄介*	火原 彰秀	火原 彰秀	
	糠塚 いそし	糠塚 いそし	糠塚 いそし	糠塚 いそし	糠塚 いそし	伊野 浩介	珠玖 仁*	珠玖 仁	珠玖 仁*	珠玖 仁	上條 利夫	
	眞野 成康	眞野 成康	眞野 成康	眞野 成康	眞野 成康	柏倉 俊介	柏倉 俊介	柏倉 俊介	柏倉 俊介	眞野 成康	野原 幸男	
学会賞等受賞候補者選考委員	小川 信明	小川 信明	小川 信明	小川 信明	小川 信明	小川 信明	小川 信明	小川 信明	小川 信明	小川 信明	尾高 雅文	
	大江 知行	大江 知行	大江 知行	大江 知行	大江 知行	大江 知行	大江 知行	大江 知行	大江 知行	大江 知行	眞野 成康	
	星野 仁	星野 仁	星野 仁	星野 仁	安斉 順一	安斉 順一	安斉 順一	火原 彰秀	火原 彰秀	火原 彰秀	火原 彰秀	
	我妻 和明	我妻 和明	末永 智一	末永 智一	北爪 英一	村本 光二	猿渡 英之	猿渡 英之	猿渡 英之	猿渡 英之	猿渡 英之	
	村本 光二	村本 光二	村本 光二	村本 光二	村本 光二		珠玖 仁	珠玖 仁	珠玖 仁	珠玖 仁	珠玖 仁	
											壹岐 伸彦	
編集委員	ぶんせき 山下 幸和	平野 愛弓	平野 愛弓	藤原 一彦	伊藤 徹二	伊藤 徹二	野原 幸男	野原 幸男	上條 利夫	上條 利夫	照井 教文	本部連絡済み
分析化学	水口 仁志	水口 仁志	北川 文彦	北川 文彦	照井 教文	照井 教文	大野 賢一	井上 久美	井上 久美	押手 茂克	押手 茂克	
Anal. Sci.	糠塚 いそし	糠塚 いそし	西澤 精一	西澤 精一	壹岐 伸彦	壹岐 伸彦	盛田 伸一	盛田 伸一	尾高 雅文	藤村 務	藤村 務	
支部庶務幹事	後藤 貴章	水口 仁志	水口 仁志	柏倉 俊介	柏倉 俊介	佐藤 雄介	佐藤 雄介	大野 賢一	大野 賢一	高貝 慶隆	高貝 慶隆	
支部会計幹事	平野 愛弓	珠玖 仁	珠玖 仁	後藤 貴章	伊野 浩介	伊野 浩介	田副 博文	田副 博文	唐島田 龍之介	唐島田 龍之介	福山真央	
支部ネットワーク委員							上條 利夫	上條 利夫	上條 利夫	上條 利夫	上條 利夫	

2020 年度日本分析化学会東北支部 各賞選考結果報告書

- 東北分析化学奨励賞 中川太一（福島大学大学院共生システム理工学研究科博士後期課程 2021 年 3 月修了見込み、26 歳）

中川氏は、界面活性剤を用いる曇点抽出法を用いて、生成する界面活性剤のマイクロドメインなどを積極的に利用し、ナノ粒子を形状及び粒径を制御して生成する新しい方法論を確立した。それらは、具体的には、硫酸カルシウムナノロッドの曇点抽出法による形状制御生成法の開発、両性イオン界面活性剤のマイクロドメイン形成と銀ナノ粒子抽出法の開発、金ナノ粒子の簡易合成法と配位子交換反応利用法の開発などである。これらの新規な技術開発は、生化学研究を含むナノ材料の分離抽出・合成の分野で、分析化学に大きく貢献し、氏の将来の研究の発展も期待できるものであり、ここに、東北分析化学奨励賞に値するものであると評価する。

- 東北分析化学賞，功績賞 応募なし

学会賞等受賞候補者選考委員会

小川信明（秋田大学）

大江知行（東北大学）

猿渡英之（宮城教育大学）

珠玖仁（東北大学）

火原彰秀（東北大学）